

点検検証部会 第2ワーキンググループ第1回会合 議事概要

1 日 時 平成31年3月22日（金）9:00～12:04

2 場 所 総務省第2庁舎 6階特別会議室

3 出席者

【委 員】

西郷 浩（座長）、河井 啓希（座長代理）、嶋崎 尚子

【専門委員】

大西 浩史、川口 大司、篠 恭彦、西 美幸

【説明者（各府省等）】

総務省統計局

独立行政法人統計センター

【事務局（総務省統計局）】

平野大臣官房審議官、横山大臣官房審議官

統計委員会担当室：櫻川室長、澤村審査官、永島次長、阿南次長

4 議 題

- （1）ワーキンググループにおけるヒアリングの進め方について
- （2）総務省（統計局）所管の基幹統計調査について
- （3）その他

5 概 要

（1）ワーキンググループにおけるヒアリングの進め方について

西郷座長から、資料1-1について説明が行われ、案のとおり決定された。

また、参考4「点検検証部会ワーキンググループの設置について」の規定に基づき、総務省の統計の作成プロセスに関与した経験がある西郷座長から河井部会長に座長の職務を代理することとなった。

（2）総務省（統計局）所管の基幹統計調査について（ヒアリング）

事務局から、資料に基づき項目ごとに総括的な説明が行われ、ヒアリングが実施された。

主な発言は以下のとおり

- ・統計センターの受託製表の範囲を確認したい。
- 入力、符号付け、審査、集計を行う。
- ・統計センターは、複数の調査を請け負っていると思うが、例えば審査をシステムで行う場合、それぞれの調査に合わせた審査ロジックを、統計センターのシステムで作成して

いるのか。

→委託者と相談して、審査マニュアルを作成し、それに沿って審査を行っている。

・予算は、どこが確保しているのか。

→総務省からの交付金で対応している。

・地方公共団体が任命する調査員の適切な業務実施確保のための措置ということで、調査実施状況を確認する、コンプライアンスチェックを実施している。具体的には、調査客体から無作為に抽出し、別途、郵送により、国が直接調査の実施状況を確認している。

・結果数値の訂正について、外部からの指摘で分かったということは、集計表のレベルで発見されたということ。具体的にどんな事例だったかを教えてほしい。

→結果表以外に、機械判読可能な形で、結果表データを別途提供するサービスを始めた。そのデータを作り始めの段階で、エラーがあったということ。そちらの新サービスで修正が出た。

・標本調査については、個々の客体情報に母集団復元情報が付与されているので、母集団復元が可能な形で永年保存されている。

・利活用先の把握方法という欄に結果数値の利活用先との連絡とあるが、そもそも利活用先をどうやって把握しているのか。

→法律を確認したり、報道ベースで把握したり、活用する際に当該省庁から連絡いただいて把握している。周期調査だと、調査事項などを検討する際に各省の意見を踏まえ、有識者に議論してもらっている。

・統計局は統計センターの関与が大きいと思うが、他府省と比較するためにも、統計センターでシステム対応している調査の数と運用手順、人数・役割分担等が見えるといい。例えば、他府省と比較して、人員が妥当な数なのかといったことも、議論の対象になってくる。そうした比較ができるように整理してほしい。

→統計センターの集計費については、他府省も含めて運営費交付金で措置されている。基本は内製しており、人数の目安と額は把握可能。

・都道府県の職員の方の減り方が著しい。その結果、恐らくは余裕がなくなっていて、研修などをきちんとしている時間が少なくなっているのではないかと。

(3) その他

事務局から次回の日程について報告があった。

(以 上)

<文責 総務省統計委員会担当室 速報のため事後修正の可能性あり>